

牧師 山本護 奏楽 山本恵美

第一部礼拝 司式 青柳明美 9:30~10:30

※讃美歌は二番までうたいます

第二部礼拝 司式 辻りち子 11:00~12:00

前奏	黙想	讃美歌	249	われつみびとの
讃美歌	67	よろずのもの とわにしらす	献金	
祈禱			讃詠	547
聖書	列王記上 19:9~10		黙禱	
	ルカによる福音書 19:1~10		主の祈り	564
讃美歌	333	主よ、われをば	頌栄	541
説教	『捜される者、残される者』		祝禱	
祈禱			後奏	

※信仰告白は省略します

皆がよく知る「徴税人ザアカイ」の物語。私もよく知っているつもりで素通りしていたが、ザアカイの傍らを通り過ぎると、そよ風が吹き、あれっ、と気づかされた。ここにお宝がまだ埋まっている。聖霊に吹かれると、私たちは無力な正直爺さんになり、ここ掘れわんわんと吠える愛犬ポチもいる。

ザアカイは「徴税人の頭で、金持ち(ルカ 19:2)」。しかし「イエスがどんな人か見ようとしたが、背が低かったので、群衆に遮られて見るができなかった(19:3)」。短軀だっただけではあるまい。ローマ帝国の下働き、定額の人頭税にイロを付けて搾取する親玉ザアカイは、民衆にも、信仰の権威にも、ユダヤ社会のすべてに蛇蝎の如く嫌われていた。群衆は、ザアカイを蹴っ飛ばして排斥したのだ。

木に登ったザアカイにイエスは「ザアカイ～今日はぜひあなたの家に泊まりたい(19:5)」と告げた。原典では「泊まらねばならぬ」という断定的な口調。「ザアカイ」と、名と共に彼の人生を呼び出し、「失われたものを捜して救うために(19:10)」、「泊まらねばならぬ」。断定的なのは神の御心だからだ。

ザアカイは金持ちで、貧しい民衆に敵対していた。またローマの力を笠に着て、ユダヤの権威にも敵対していた。イエスは民衆と共にあったが、人間の対立にはくみせず、誰とでも平気で「出会った」。ザアカイが頼みとしていたものは金銭。金の価値のみが彼の人生だった。ところがイエスと出会ったザアカイは、唯一の支えだった金を、あるいはこれまでの生き方をも手放すことになった(19:8)。

イエスは、ザアカイ宅に泊まった(19:6~7)。彼の家でどんなやりとりがあり、何がおこなわれたかはまったく記されていない。だが確かな事として「今日(19:5,9)」驚くべき転換が起った。語られないそこに、言葉では表現しえない不可思議な「空洞」を感じる。他の箇所でも、イエスの奇跡行為は気抜けするほどあっさり描かれ、死から命へ、拘束から自由へ転換した事実が報告されている。

命からがら逃げて洞穴に宿るエリヤに、神は「ここで何をしているのか(列王上 19:9)」と問う。エリヤは「わたしは万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました。ところがイスラエルの人々はあなたとの契約を捨て、祭壇を破壊し、預言者たちを剣にかけて殺したのです。わたし一人だけが残り、彼らはこのわたしの命をも奪おうとねらっています(19:10)」と答えた。ここでの「残る」は絶望の響き。

それに対して神はこう語っている。「しかし、わたしはイスラエルに七千人を残す。これは皆、バアルにひざまずかず、これに口づけしなかった者である(19:18)」。ここでの「残す」は希望の響き。「残る」という言葉は何を暗示しているのか。人間が「わたしが～残る(19:10)」と言えば絶望、だが神が「わたしは～残す(19:18)」と言えば希望。「残りの者が帰ってくる。ヤコブの残りの者が、力ある神に(イザヤ 10:21)」。もはや人間的な可能性は皆無で、「残りの者」が為しうる応答は神への信頼のみだ。

「バアル」とは、カナンやフェニキアに土着する神の名だが、私たちの周囲にある他宗教に当てはめても外的だ。むしろ宗教的な心性で人間を捕える、金や権力(ザアカイや信仰の権威者)や自己中心性こそバアルの正体だろう。失われた私たちはキリストに捜され(ルカ 19:10)、神に残される者となる。

皆が立ち去り「イエス一人と女が残った(ヨハネ 8:9)」 ぼつねんと残された神殿の広場 ここが私たちの出発点 「行きなさい(8:11)」というキリストの声 私たちの心身を揺さぶり続ける力ある響き

7/11 礼拝後に八ヶ岳教会の臨時総会を開きます。議題は役員選挙、会員は予定して下さい。次主日 6/27 は長崎哲夫牧師に説教していただきます。山本牧師は甲府中央教会へ(今回は最後です)。

礼拝堂・集会所の住所：408-0012 山梨県北杜市高根町箕輪 2265-3

連絡・問い合わせは牧師へ：408-0205 北杜市明野町浅尾新田 1324 TEL 0551-25-4008

メール komechan.olive@orange.zero.jp HP は「日本基督教団八ヶ岳伝道所」で検索して下さい。